

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)
このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。
記

令和元年度病害虫発生予報第5号
令和元年度病害虫発生予察注意報第5号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085
内線 471
ファックス 0561-63-7820

令和元年度病害虫発生予報第5号

令和元年 8 月 2 日
愛 知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	平年並	県全域	7月下旬の葉いもちの発生量は 平年並	±
	紋枯病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	白葉枯病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ニカメイガ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は少ない	± ± -
	セジロウンカ	少ない	県全域	7月下旬の発生量は少ない 予察灯における誘殺数は少ない	- -
	トビイロウン カ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯において誘殺されていない (平年並)	± ±
	ツマグロヨコ バイ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	斑点米カメム シ類	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	やや少ない	県全域	7月下旬の被害株率はやや少ない	－
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数は少ない	－ －
	コブノメイガ	やや多い	県全域	7月下旬の被害株率はやや多い	＋
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない 8月の気温は高い	－ ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± ＋

・防除対策

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

西三河の一部地域で本田でのすくい取り及び予察灯における調査で、カスミカメムシ類やホソハリカメムシなどが多く捕獲されています。一方、畦畔におけるすくい取り調査では平年並の発生状況です。畦畔や水田内で斑点米カメムシ類を確認した場合、キラップ粒剤やダントツ粒剤、スタークル／アルバリン粒剤などで穂揃期に防除しましょう。その後も発生が多い場合は、7～10日後に再度防除を行いましょ。なお、キラップ粒剤は出穂10日前から出穂期が散布適期、ダントツ粒剤は出穂期から穂揃期が散布適期です。また、スタークル／アルバリン粒剤は出穂7～10日後に散布するのが効果的です。

〔イネ・コブノメイガ〕

8月1日発表の「コブノメイガ情報第1号」を参考にしてください。

〔ダイズ・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

・留意事項

イネいもち病の発生状況や感染好適条件出現日等は、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第4号」を参考にしてください。

イネ紋枯病の発生量が多いほ場が見られます。防除対策等については、本日発表の「イネ紋枯病情報第1号」を参考にしてください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の胞子形成量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない	－
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	7月下旬のイヌマキにおける発生量はやや多い 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	＋ ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナシ	うどんこ病	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い	+
	ハダニ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
モモ	モモハモグリガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 7月下旬の被害葉率は平年並	± ±
カキ	うどんこ病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	カキノヘタムシガ	平年並	県全域	第1世代幼虫による被害果率は平年並	±
	コナカイガラムシ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや少ない	県全域	7月下旬のヒノキ林における生息頭数はやや少ない 7月下旬のヒノキ球果量は平年並からやや少ない	- -~±

・防除対策

[ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ]

本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第4号」を参考にしてください。

[ナシ・うどんこ病]

トリフミン水和剤やパレード15フロアブルなどで防除しましょう。収穫が始まっているほ場では、収穫前日数や周囲への飛散に注意して散布しましょう。

・留意事項

ブドウべと病がやや多い状況です。次作の越冬源量を減らすため、収穫後は防除を実施しましょう。

果樹カメムシ類のヒノキ林での生息状況や離脱時期の詳細は、本日発表の「果樹カメムシ類情報第3号」を参考にしてください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	+
	シロイチモジヨトウ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は多い 8月の気温は高い	+
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並からやや少ない 8月の気温は高い	-~± +

・防除対策

〔キャベツ・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

〔キャベツ・シロイチモジヨトウ〕

本日発表の「令和元年度病害虫発生予察注意報第5号」を参考にしてください。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。キャベツでは、セルトレイ育苗時はプレバソフフロアブル5などのかん注処理、定植後はアニキ乳剤やディアナSCなどで防除しましょう。

・留意事項

キャベツのコナガは、フェロモントラップにおける誘殺数は平年並です。また、ハイマダラノメイガは、今後、発生に好適な気象条件が見込まれるため、注意が必要です。育苗期には防虫ネットなどで覆い、成虫の侵入を防ぐとともに、薬剤防除を徹底しましょう。

トマトでは、コナジラミ類の発生が増加する時期です。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（病原ウイルス：TYLCV）、コナジラミ類はトマト黄化病（病原ウイルス：ToCV）を媒介します。これらウイルス病の感染を防ぐため、育苗時、定植時にはコナジラミ類が寄生していないか確かめるとともに、コナジラミ類に効果のある粒剤を施用しましょう。また、侵入防止対策として、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置しましょう。

イチゴの育苗ほどハダニ類の発生量が多い地域があります。育苗ほどは、気門封鎖型農薬などで防除しましょう。本ぽにハダニ類を持ち込まないために、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。成虫と幼虫の両方に効果のあるアフーム乳剤、幼虫に効果のあるモベントフロアブルのかん注処理、成虫に効果のあるコロマイト水和剤、気門封鎖型農薬などを組み合わせて用いると良いでしょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は多い 8月の気温は高い	+
	ハダニ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

〔キク（露地）・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台8月1日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%